

## 第3回中之島映像劇場

### 全体芸術の試み 無声映画+音楽演奏+弁士の語り

—東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵作品による—



伊藤大輔《御詠治郎吉格子（おあつらえじろきちごうし）》  
 (1931年/80分)



カール・ハインツ・マルティン《朝から夜中まで》  
 (1921年/69分)

【日時】 2012年3月24日(土)、25日(日) 13時～、15時～ (各プログラム冒頭に10分の解説あり)

	3月24日(土)	3月25日(日)
13時	Aプログラム (音楽：柳下美恵)	Bプログラム (音楽：柳下美恵)
15時	Bプログラム (活弁：澤登翠/音楽：柳下美恵)	Aプログラム (活弁：澤登翠/音楽：柳下美恵)

\*活弁の澤登翠さんは各日15時の回のみ担当です

#### 【会場】

国立国際美術館 B1 階講堂

入場無料/全席自由/先着130名(午前10時より各プログラムごとの整理券を配布/1名様につき1枚)

\*各プログラム入れ換え制です

#### 【クレジット】

主催：国立国際美術館、東京国立近代美術館フィルムセンター

協賛：財団法人 ダイキン工業現代美術振興財団

協力：株式会社マツダ映画社

**【全体芸術の試み】**

第3回を迎える「中之島映像劇場」では、東京国立近代美術館フィルムセンターとの共催により、音楽と弁士による説明（活弁）とを伴った形で、センター所蔵の古典的名作を35mmフィルムで上映します。いにしへの無声映画全盛期の再現となるでしょう。

美術館の企画として、これはさらに別の意味を持つといえます。

1922年、イタリア生まれの映画人、リッチョット・カニュードは有名な「七つの芸術宣言」を著し、その中で「他の全ての芸術が絶えず向かっていた全体芸術を創造するために、映画を必要とする」と述べました。建築と音楽があり、それぞれが絵画と彫刻、詩と舞踏をたずさえている。そして映画こそ、これらを並立させる「第七芸術」となる。つまり「動く絵」であり、それこそ「リズムを持つ芸術の規範に従って展開する造形芸術」なのです。

私たちは、このようにカニュードが映画（映像メディア）に期待した「全体芸術」のその後の展開を知っています。つまり、映画は立派に「芸術」となったのですが、さらにそれ以上の発展をしていったということです。1960年代以降の「拡張映画」（Expanded Cinema）や1970年大阪万博での数々の実験、そして現在のVJ（ヴィジュアル・ジョッキー）などが挙げられます。今回の企画は、映画を越えるような「全体芸術」についての、美術館における1つの試み／挑戦です。

**【上映作品】****A プログラム：**

《御詔治郎吉格子（おあつらえじろきちごうし）》

・日本／1931年／80分／監督：伊藤大輔／撮影：唐沢弘光

解説：時代劇映画を築きあげた巨匠、伊藤大輔（1898～1981年）が監督した、昭和初期を代表する作品の中で現存する数少ないもの。主人公、鼠小僧次郎吉を演じるのが、大河内傳次郎。大阪を舞台とした、次郎吉をめぐる恋愛物語となっています。

**B プログラム：**

《朝から夜中まで》*Von morgens bis mitternachts*

・ドイツ／1921年／69分／原作：ゲオルグ・カイザー（Georg Kaiser）  
／監督：カール・ハインツ・マルティン（Karlheinz Martin）  
／撮影：カール・ホフマン（Carl Hoffmann）

解説：ドイツ表現主義演劇の影響下に作られた映画作品。銀行の金を着服したあげく、破滅する出納係の物語。日本では同じ原作を築地小劇場が舞台化しています（1924〔大正13〕年12月。ちなみに村山知義が担当した舞台美術は、当時大変な評判となりました）。

**【出演者の紹介】**

活弁：澤登翠（さわと・みどり／各日 15 時の回を担当）

プロフィール：

法政大学文学部哲学科卒業。故松田春翠門下。日本を代表する弁士として国内はもとよりフランス、アメリカほかの海外公演を通じて、「弁士」の存在をアピールし高い評価を得ている。「伝統話芸・活弁」の継承者として「活弁」を現代のエンターテインメントとして甦らせ、文化庁芸術祭優秀賞ほか数々の賞を受賞している。適確な作品解釈による多彩な語り口で、いままでに 500 本以上の様々なジャンルの無声映画の活弁を務めている。著書に『活動弁士 世界を駆ける』（東京新聞出版局／2002 年）がある。



音楽：柳下美恵（やなした・みえ／全プログラム担当）

プロフィール：

無声映画伴奏者。武蔵野音楽大学器楽科（ピアノ専攻）卒業。1995 年、朝日新聞社主催の映画生誕 100 年記念上映会でデビュー以来、国内外の映画祭、上映会などで公演。紀伊國屋書店クリティカル・エディション・シリーズ《裁かるるジャンヌ》《魔女》の音楽を担当。本格的な国際デビューとなった 2010 年のポルデノーネ無声映画祭（イタリア）では、島津保次郎監督の 4 時間に及ぶ長編などに挑戦し、絶賛を博した。2006 年度日本映画ペンクラブ奨励賞受賞。NPO 法人 映画保存協会正会員。映画に集中できる伴奏を心がけている。

**【中之島映像劇場】**

国立国際美術館では 1989 年から映像作品の収集に取り組み、常設展示場で公開していました。近年、中之島に移転してからは定期的な上映会の形を取っています。さらに 2008 年には「Still/Motion 液晶絵画」展を開催し、絵画と映像とが交錯し合う現代の美術表現に光を当てました。さらなる展開を図ろうと、2011 年の 3 月から「中之島映像劇場」と名付けました。メディアに立脚した、言葉の最も広い意味での「美術と映像」の歴史的な変遷を探り、現代の状況の解明を試み、さらには今後の動向をも予示出来ればと願っています。

**【展覧会情報】**

本上映会時には以下の展覧会を開催中です。

2012 年 1 月 7 日（土）～ 4 月 8 日（日）

「草間彌生 永遠の永遠の永遠」

「コレクション展」

**【お問い合わせ先】**

電話：06-6447-4680 (代表)  
FAX：06-6447-4698  
530-0005  
大阪市北区中之島 4-2-55  
国立国際美術館

**【上映会担当】**

森下明彦 (客員研究員)

**【記事掲載にあたっての写真の取扱いについて】**

作品写真 (プレス画像) については別紙申込書、または、当館ウェブサイトにて申請いただけます。

<http://www.nmao.go.jp/press/index.html>